

平成24年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	狭山市立入間川小学校	実施日	H24.5/30、9/12、12/13、毎週水曜日
代表者	仲川 隆雄	活動場所	入間川
タイトル	入間川探検隊		
活動目的	4年生が、総合的な学習の時間に学校に隣接する入間川の生息魚類の調査や、川辺の動植物の観察会、伝統的なアユ漁の体験、カヌー体験等を行い、調査結果のまとめ、発表会を開いた。		
活動内容	<p>隣接する入間川の生息魚類の調査や川辺の動植物の観察会、地元の伝統的なアユ漁の地引網体験、カヌー体験などを通して入間川への愛着心を育むと共に、調査結果のまとめや研究発表会を開催することで身近な環境への興味関心を高めると共に、環境保全活動への参加意欲の向上を図る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<p>入間川の植物観察や生きもの調査、水質検査などを行うことで身近な環境を調べる方法を体験し、環境を知ることができた。また、地引網やカヌーの体験を通して自然に親しむことができた。活動に際して特にカヌーや地引網の体験は、天候と河川の水位の上昇によって実施できなくなるため調整が大変だった。しかし、多くの保護者・地域の方にボランティアとして関わっていただき、参加していただいた方にとっても良い取り組みだった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	180,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	駿河台大学 現代文化学部	実施日	H24. 9/18、10/14									
代表者	吉田 邦久	活動場所	入間川									
タイトル	生態系を守れ！外来魚駆除 in 入間川											
活動目的	外来種の侵入とその問題点について、学生が駆除という実体験することにより、身近な地域から世界的視野で環境問題をとらえるきっかけとし、また地域の環境保全の必要性を考えるきっかけとする。											
活動内容	<p>入間川の生態系とその環境を学んだ上で、実際に現場に出て外来魚種の駆除を行っている方に習いつつ、刺網、地引網、投網、を使用して捕獲駆除を行う。そして、身近な地域で起こって環境問題を考えてもらう。捕獲した外来魚は廃棄処分ではなく、調理して食し、命の尊さを学ぶ。後日、参加学生に体験記を書かせ、本事業の評価と広報を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>駆除の様子、地引網を張っている</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>入間川の生態系について学ぶ</p> </div> </div>											
活動の成果	<p>実際に捕獲した外来魚や、河岸に放置されたゴミをみて驚き、事後に河川清掃などのボランティアに参加する学生が複数みられるなど、地域の環境保全への意識が醸成された。捕獲作業中は、複数ののぼりを掲げたこともあり、見学する地域の方の姿があった。また9月の駆除については、テレビ埼玉が取材に訪れたこともあり、学生が行う環境保全活動を周知することが出来たと同時に、「地域の大学」としての理解を深めることができた。今後も継続して活動していくことで、こうした派生効果がさらに上がることと思われる。</p> <p>入間漁業協同組合、飯能市エコツーリズム推進室の協力を得て実施した。複数の機関との連携で、多くの大人と接点が得られたことは、学生たちの社会人基礎力醸成の場ともなった。今年は3年目でお互いの意思疎通が図られ、円滑に作業がすすめられた。</p> <p>■外来魚捕獲数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">実施日</th> <th colspan="2" style="width: 80%;">捕獲数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24年9月18日</td> <td style="width: 30%;">コクチバス 34尾</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>H24年10月14日</td> <td>コクチバス 35尾</td> <td>オオクチバス 3尾</td> </tr> </tbody> </table> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>			実施日	捕獲数		H24年9月18日	コクチバス 34尾		H24年10月14日	コクチバス 35尾	オオクチバス 3尾
実施日	捕獲数											
H24年9月18日	コクチバス 34尾											
H24年10月14日	コクチバス 35尾	オオクチバス 3尾										
今後の改善点	特になし											
最終助成決定額	166,920円											

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成24年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人はとやま環境フォーラム	実施日	H24.4月～H25.3月
代表者	愛場 謙嗣	活動場所	唐沢川、鳩川、越辺川
タイトル	鳩山町における自然環境調査保全活動		
活動目的	鳩山町の北東部は県立丘陵自然公園区域にあるなど自然豊かな山村部にあるが、公園内に大規模集合住宅が造成され、町内に4つのゴルフ場ができるなど、相次ぐ開発により自然・生活環境が大きく変化してきている。そうした自然・生活環境の変化を多面的にモニタリングすることを通して、多様な生態系の再生により安全な暮らしの確保に向けての基礎データを蓄積する。また、様々な環境保全活動の体験学習・講演会などを通してそれらの意義への理解を深めてもらうことを目的としている。		
活動内容	<p>■残留農薬分析調査 ゴルフ場排水路での農薬分析のための採水</p> <p>■エコ図書館の運営 平成22年12月から町営の施設を借りて市民向けの『エコ図書館』を継続して開催</p> <p>■広報紙『フォーラム NEWS』発行 地域住民へ配布</p>		
活動の成果	<p>残留農薬分析で殺菌剤成分クリロタロニル、チウラム、メタラキシルの3成分の残留分析を行い、いずれも0.001 mg/l未満だった。これらの分析データをもとに、鳩山町役場に各ゴルフ場提出分析結果報告に検量線データの添付を要望し、実現した。また、ホトケドジョウの唐沢川流域での生息が確認され、保全対策立案のための出発点となる基礎データが蓄積された。いずれも広報誌『フォーラム NEWS』に掲載し、地域住民に情報提供を行った。</p> <p>今年度もエコ図書館を継続開館し、地域住民の環境保全学習に貢献した。</p>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	179,000円		



平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	上尾の自然を守る教職員の会	実施日	H24. 7/29、12/9、H25. 1/6
代表者	安孫子 繁子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・河川敷の植物を使った草木染教室（会員の研修） ・自然観察会と染色材料採集の会 ・公民館での染色教室（一般対象） ・山なみ観察会と七草採り、七草粥 		
活動目的	NPO 法人荒川の自然を守る会と共に、自然塾や観察会の企画運営を行い、多くの親子の自然体験をサポートしてきた。さらに身近な自然の豊かさを PR し、地域の自然を見直してもらうことを目的としている。		
活動内容	<p>■草木染教室（会員・一般） 会員研修として、野草を使った染色することで自然を活かし楽しむ方法の研修を積み、今後自然観察会や市民参加のイベントに繋げ、実施する。</p> <p>■観察会・七草採り・七草粥 上尾市の堤防からの山なみ観察会と七草粥の会も、草木染教室とは違った層の関心と呼ぶイベントとして実施する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<p>■7/29 観察会・草木染（会員向け）：参加者 17 名 会員研修もかねて、夏休みのお子様たちを対象に実施した。外来種のセイタカアワダチソウと藍を使用し、型染めと絞り染めをした。草木染を取入れる良さを確信できた。</p> <p>■12/9 自然塾 野草を使った草木染（一般向け）：参加者 17 名 多くの参加者に楽しんでもらった。また、ハンノキプロジェクトを行っている小・中学校に草木染めを紹介したところ、大変興味をもち、中学校から次年度行ってみたいとの反応があった。</p> <p>■1/6 山なみ観察会・七草摘みとアシ刈り・七草粥：参加者 31 名 イベントの中で、現在ではなかなか七草が揃わない理由や、昔の「野菜」の意味を話すと参加者は大変興味を持ってくれた。参加者で大釜 2 台分を食した。寒さの中の七草観察会と七草粥は、日本人の原点に触れる感じがして好評だった。</p> <div style="text-align: right;">  </div>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	180,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成24年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人荒川の自然を守る会	実施日	H24.4月～H25.2月（計43回）
代表者	菅間 宏子	活動場所	荒川 ミツ又沼ビオトープ
タイトル	<ul style="list-style-type: none"> ・セイタカアワダチソウなどの外来種の駆除やアシ刈りの実施 ・ミツ又沼ビオトープの定点調査、自然観察会の実施 ・上尾市平方地区環境フェスティバルでの広報活動 		
活動目的	ミツ又沼ビオトープの自然管理作業と多くの方に自然に親しんでもらうための観察会、調査会の開催。		
活動内容	<p>■観察会・自然管理作業</p> <p>4月～11月は帰化植物退治、12月、1月は希少植物の生育環境を守るためのアシ刈りを実施する。親子向けイベント「親子自然塾ミツ又・遊んで学ぼう」を実施し、多くの親子に自然と親しんでもらう。</p> <p>■広報活動</p> <p>上尾市の環境センターで毎年行われている環境フェスティバルに参加し、パネル展示、植物のつるなどを利用したリース作りをする。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<p>上尾市の環境フェスティバルでは、悪天候のため午前中で終了したが、多くの方に足を運んでもらい、喜んでくれた。また、親子向けイベントでも多くの親子に自然と親しみながら楽しんでくれた。</p> <p>今年度は、ミツ又沼ビオトープにおける活動に必要な道具、チラシ等の印刷、広報活動に費用を助成いただけたことで、参加者に楽しく、安心して活動に参加してもらえた。活動への参加も、親子向けイベント「親子自然塾ミツ又・遊んで学ぼう」の効果で、少しずつ若い年齢層の参加が増えてきている。</p> <div style="text-align: right;">  </div>		
今後の改善点	<p>今後は、参加者数のアップと広い年代の方々に参加していただけるような取組みに力を入れていきたい。</p>		
最終助成決定額	184,518円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成24年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人荒川流域ネットワーク	実施日	H24.4月～H25.3月
代表者	恵 小百合	活動場所	入間川、槻川
タイトル	入間川水系 アユ溯上作戦		
活動目的	入間川水系において東京湾から天然遡上するアユが成魚の生息域である上流域まで天然遡上できる河川環境の復活を目指す。また、アユの天然遡上を通じ、恵み豊かな川、川文化、地域活性を目指す。		
活動内容	<p>■調査 入間川・都幾川・越辺川・槻川・高麗川の5カ所で稚アユのアブラビレを切除し、各河川に放流して、流域にある取水堰等の溯上環境を投網や友釣、地引網により調査する。</p> <p>■親子連れを対象としたイベント 多くの人に川遊びを兼ね、調査を行ってもらうために、親子連れを対象にした地引網漁のイベントを開催する。</p> <p>■シンポジウムの開催 各河川での調査結果を冊子のまとめ、流域の環境団体に結果報告を行うシンポジウムを開催する。</p>		
活動の成果	<p>【調査結果】 今年度は、入間川・都幾川・槻川・越辺川・高麗川の5河川で実施する予定だったが、台風等の影響で稚アユが確保できず、調査ができたのは入間川と槻川の2河川のみだった。しかし、漁協や釣人から貴重な情報提供があり、データを集めることができた。 標識アユ捕獲数：9匹（入間川9匹、槻川0匹）</p> <p>【イベント】 開催日：H24.7/28、8/19、9/16 参加人数：合計136名 今年度は、埼玉県も私たちの天然アユ復活の提案を受けてくれ、入間川に魚道を設置し、東京湾から遡上するアユの復活に取り組むことになった。私たちが目指している「夏の風物詩、地曳網漁の復活」のための条件が、整い始めていると言える。</p> 		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	166,560円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	比企郡川島町立 出丸小学校	実施日	H24.5月～H25.2月
代表者	中島 豊吉	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	荒川の自然再生体験		
活動目的	三ツ又沼ビオトープにおいて自然観察を行うとともに、ハンノキの種を採集し、苗を育て、その苗を再びビオトープに植え戻す自然再生の活動を行っている。		
活動内容	<p>「荒川の自然再生」をテーマに、5、6年生の総合的な学習の時間に授業の一環として取り組んでいる。学校近郊の荒川の河川敷にある三ツ又沼ビオトープにおける動植物の生態系の観察や、ハンノキの苗木の植栽と種の採集などの活動を、あらかわ市民環境サポーターの皆さんの支援を頂きながら定期的に行っている。秋から冬にかけて、ビオトープ周辺で採集したハンノキの種を学校のプランターに植え、芽が出て苗木が育っていくと一本一本を鉢に植え替えて、2年間育てる。幹が直径3cmほどに育つと、またビオトープ周辺に植え戻す。</p> <p style="text-align: center;">ハンノキの種を植える</p> 		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地であるいは教室で、あらかわ市民環境サポーターの方々へ指導を受けたり、資料で調べたりすることで、児童は環境保護に関する知識・理解を体験に基づき確かなものにしてきている。 ・ 「川島の緑と水（環境を守る）」の学習で「荒川の自然再生」をテーマに三ツ又沼ビオトープにおける動植物の生態系などの学んだことをまとめて、発表をしました。窓辺には育てているハンノキの苗木が置かれています。 ・ 三ツ又沼ビオトープ周辺の植物や動物について学習しました。三ツ又沼ビオトープでは、スズメバチも特定の生き物が増えすぎるとおさえる大切な役割をしている、大切な住人であることを学習しました。  		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	99,872円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	高麗川ふるさとの会	実施日	H24. 4/1～H25. 3/19 まで
代表者	三浦 輝夫	活動場所	高麗川
タイトル	県下有数の清流である高麗川の良好な水辺環境を保全する活動を推進する		
活動目的	高麗川の良好な水辺環境を将来の子孫に引き継いで行くことを目的とし、行政との協働のなかで様々な活動を推進していく。		
活動内容	<p>主な活動としては、環境、植生、水生生物・水質、野鳥、学童支援、高麗川塾、広報の7文科会を中心として、浅羽ビオトープ周辺の清掃活動（毎月）、植生及び野鳥観察会、小学生を対象とした水の中の生き物調べ、高麗川に関連する写真展、こまがわニュースの発行などを行っている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<p>坂戸市環境学館と共同で学童を対象とした「夏休み生物観察」を行ったほか、青年会議所と共にホテル再生を目指した活動を行うなど、広い地域交流を通じ河川環境保護の意識啓発が図れた。また、日常の管理作業を行い、樹木に樹木名標識の取り付けも行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <p>水質浄化作業</p> <p>樹木名の標識付け</p> </div>		
今後の改善点	<p>今後は、関係団体との更なる連携を図りながら河川環境保全を行いつつ、写真展や野鳥調査、植生観察会などを通じ、より多くの方が親しみを持てるような活動を行って行きたい。</p>		
最終助成決定額	180,000円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO 法人狭山市の高齢社会を考える会	実施日	H24. 4 月～10 月
代表者	山川 昭吾	活動場所	入間川
タイトル	リハビリテーション・パーク整備計画		
活動目的	入間川の自然を守り、多くの市民に広く活用して頂く環境づくり		
活動内容	<p>埼玉県「水辺再生 100 プラン」に入間川（下奥富地区）が対象となり、車いすでわんどに行けるバリアフリースロープが新設されることになった。それにより、身障者や高齢者が川の浅瀬まで近づくことができるようになるため、自然観察会等のイベントを行う。また、生きものの生息環境の保全・創出のための環境整備や保全作業等を行う。</p>  		
活動の成果	<p>昨年、狭山市障害者団体連合会と入間川の再生の検討会を開催した。市民から「車いすでも自然と触れ合いたい」、「目に障害があるが、川のせせらぎを耳に歩いてみたい」等の要望があり、今回の武州・入間川プロジェクトで車いすの助成を希望した背景がある。車いす導入後は、新設された散策路を 5 名の車いすの方に走行して頂き、意見を聞くことができた。</p> <p>10 月に新設工事が完了してからは、周辺のゴミ拾いや、外来植物の駆除などを重点的に行っている。</p>  		
今後の改善点	<p>天候等の影響で新設工事が遅れ、予定していた計画がなかなか進められなかった。子どもたちの環境学習の場として整備をしているわんども、まだ植物の生育が追いついていないので、来年度以降は生育状況を見ながら活用していきたい。</p>		
最終助成決定額	147,600円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	関東地方の外来魚を考える会	実施日	H24.5/9、6/11、9/11、10/10
代表者	山崎 雅彦	活動場所	入間川
タイトル	入間川の生態系を崩す外来魚の実態基礎調査		
活動目的	現在深刻化してきている入間川での外来魚問題の現状を把握するための調査を行い、外来魚問題に取り組むための基礎データを作成すると共に、入間川流域の市民を含む多くの方に周知してもらう。		
活動内容	<p>入間川にて、外来魚の種数や食物連鎖等の、具体的な現状を把握する基礎調査を実施する。 実施期間：5月～10月の4日間 実施場所：入間川（菅間堰～初雁橋下までの8地点） 調査内容：水温、気温、数量、種数、調査現場と外来魚の写真、胃内容物等 調査方法：目視調査、投網・釣り・タモ網による採捕調査 啓発活動：市民にシンポジウムやエコプロダクツなどで、調査結果を多くの人に報告する</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<p>〈調査結果〉 胃内容物から、コクチバスは在来種を捕食していることがわかる。また、産卵床を守るオオクチバスやブルーギルの幼魚の捕獲、コクチバスの稚魚も多数確認できたことから、それぞれの種が繁殖していると考えられる。また、調査結果等については第8回川の日ワークショップにて紹介し、多くの方に注意・喚起することができた。 捕獲数：コクチバス 24 個体、オオクチバス 2 個体、ブルーギル 2 個体 胃内容物：アユ、オイカワ、ヤゴ、水生昆虫、エビ類</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>		
今後の改善点	今回の調査でも多くのコクチバスを確認したので、来年度も継続して調査を進める。また、入間川の菅間堰の上下流にて外来魚が生息できそうな環境があったので、詳細な調査の実施が望まれる。今後は、入間川だけではなく、荒川へと調査の範囲を広めていく予定。		
最終助成決定額	154,748円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	NPO法人エンハンスネイチャー 荒川・江川	実施日	H24.4月～H25.2月 毎月最終金曜日、他20回程度
代表者	小川 早枝子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又沼ビオトープ市民参加型 環境管理活動		
活動目的	荒川とその支流の江川を中心とした生態系保全・再生に関する調査・研究、試験活動や環境管理活動を継続的に行っている。		
活動内容	<p>1989年、上尾市自然環境調査により三ツ又沼の自然環境の貴重性がわかり、1990年より環境団体が荒川上流河川事務所に保全を働きかけた。</p> <p>1994年、国と市民団体によるパートナーシップにより、ビオトープ設立にむけて協働。</p> <p>2001年、三ツ又沼ビオトープオープンとなり、市民参加型環境管理活動開始。</p> <p>具体的には、草刈り、草運び出し、外来植物の駆除、学校や市民への環境教育等を行っている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンノキ広場では、外来種が生育する前から駆除作業に取り組み、5月と7月は他団体とも協働してオオブタクサ、セイタカアワダチソウ、アレリウリ等の外来種を結実前に抜き取った。 ・2年前から桑を伐採して柳林の再生を行っているが、徐々に成果が表れてきている。 ・行政や地域と協働して、希少種を守るための野焼きを行った。 ・昨年度の教訓を生かして早期に外来種駆除作業を開始することができたので、来年度も早期に年間を通した計画を立てている。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">ヨシ刈りと運び出し</p> <p style="text-align: center;">助成金で購入した用具</p>		
今後の改善点	野焼きの準備作業は重労働なので、来年度はボランティアの負担を軽減する工夫をしたいと思っている。		
最終助成決定額	177,800円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	湿地の植物を大切にする会	実施日	H24.4月～H25.2月
代表者	藤井 悦子	活動場所	三ツ又沼ビオトープ
タイトル	三ツ又沼ビオトープの自然環境保全作業		
活動目的	荒川旧流路の豊かな自然を残すため。		
活動内容	<p>2001年4月に「三ツ又沼ビオトープ」がオープンし、生態系の保全・再生を目的とする自然環境管理作業が、行政と市民のパートナーシップで始まった。その中で、外来植物駆除の草抜き作業を行ってきた。今後も作業の継続が必要であり、増え過ぎた桑の伐採作業なども行う。また、希少種保護のためヨシ原の刈取りや刈り草の運びだし作業も行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>外来種駆除作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヨシ原の刈取り</p> </div> </div>		
活動の成果	<p>一般市民には広報等で呼びかけ、外来種駆除作業を年間通して毎月1回は実施した。その他、臨時作業も数回行うことができた。春期より冬期まで根気強い外来種抜き作業を継続しなければならない。</p> <p>12月～翌2月までじゃ、ヨシ原の希少種保全のための刈取りや運びだし作業を実施した。これらの作業により、外来植物の減少を期待している。</p> <div style="text-align: right;">  </div>		
今後の改善点	特になし		
最終助成決定額	40,300円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成

平成 24 年度「武州・入間川プロジェクト」活動助成 実施状況

団体名	比企の川づくり協議会	実施日	H24. 7 月～H25. 3 月
代表者	千葉 茂樹	活動場所	槻川
タイトル	都幾川水系 コクチバス撲滅作戦		
活動目的	都幾川では、市民調査結果で 2010 年 はじめてコクチバスの生息が確認された。特定外来生物に指定されているコクチバスの繁殖は、河川環境保全上大きなリスクと考えられることから、埼玉県の水辺再生事業に指定された「槻川栃本堰～相生橋周辺」でのコクチバス成魚、稚魚、産卵床などの繁殖現況調査を実施して、都幾川水系・槻川水系の生物環境保全を目的とする。		
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コクチバス駆除対策についての県関係部局、武蔵漁協との協議 ・槻川栃本堰下流（ブロック護岸）での周知ボード製作・設置 ・定期的な現場での産卵床・稚魚観察と、周知活動等 ・タモ網、刺し網、投網などでの駆除作業（一部上流ダムにて） <p>コクチバスの産卵床と卵</p>  <p>タモ網での稚魚採捕</p>  <p>カヌーで繁殖確認調査</p> 		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・コクチバス成魚の確認は、水辺再生地に於いても顕著になっており、産卵床と稚魚の増加も認められた。河川利用者に呼びかけが可能。 ・当地での産卵・繁殖は、5 月中旬～6 月下旬の約 1.5 ヶ月の間に行われており、水深 50 cm 前後の護岸付近でも多く目視・確認された。 ・この時期は、梅雨期でもあり河川が濁ると、目視による確認が難しくなるが、産卵床 30 cm × 40 cm ぐらいの大きさのものが多い。 ・完全に卵床が除去出来なかったものは、稚魚に成長して体長 1.5 cm より大きくなると、浅瀬に移動するので採捕・殺処分が難しくなる。 <p>リリース(再放流)禁止・移動禁止</p> <p>コクチバス</p>  <p>ブラックバス(ワカサギ)の放流は犯罪になります</p> <p>設置する周知ボード</p>  <p>周知ボード設置場所の確認</p>		
今後の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・一部コイなどに捕食されているケースもあるが、当地での繁殖は確実に増加傾向にある為、今後定点モニタリングを行うことが必要。 ・4～5 名でのタモ網採捕では、生息数の捕殺ははかどらない。刺し網や投網などで、恒常的に駆除することを検討する必要がある。 ・上流の止水域（ダム）でもリリースが行われたとの情報があり、刺し網による繁殖確認調査を行うことも検討する。 		
最終助成決定額	70,350円		

※各団体からの活動完了報告書を元に作成